

祝 TAMA 映画賞 スタート！！

&

NW長編映像コンペティション10周年！！



二〇〇九年十一月下旬に開催された多摩市の映画祭「TAMA CINEMA FORUM」は十九回を迎え、「TAMA 映画賞」を創設した。

「日本一早い映画賞」を特徴とし、観客の立場から、映画二作品・俳優など八人を発表、多数のゲストに授賞式や関係するプログラムにご来場していただいた。（詳細3頁へ）

また、長編映像コンペティション「TAMA NEW WAVE(NW)」も第十回という節目を迎えた。

劇場公開された商業映画『60歳のラブレター』（中村雅俊主演）の深川監督もNW出身である。

今年もハイレベルな映画が集まり、グランプリには一般審査員から今泉力哉監督の『最低』、プロの審査員から特別賞として、高橋康進監督の『ロックアウト』が選ばれ、大いに盛り上がりを見せた。（詳細2頁へ）

着実に成果を積み重ねるNW、新たに歴史を刻み始めたTAMA映画賞。TAMA CINEMA FORUMはTAMAから映画を発信し続ける。

会報内容

【付録】特別チラシ
二〇一〇年二月
映画祭レポート

上映会『田中さんはラジオ体操をしない』
「清志郎」
「チャプチェ」まで

TAMA NEW WAVE 審査結果

グランプリ

『最低』 今泉力哉監督

特別賞

『ロックアウト』 高橋康進監督

ベスト男優賞

『最低』 芹澤興人さん

ベスト女優賞

『ヘビと映子と佐藤のこと』 小枝さん

TAMA映画賞 受賞作品・受賞者

最優秀作品賞

『ディア・ドクター』 西川美和監督、キャスト一同
『ウルトラミラクルラブストーリー』 横浜聡子監督、キャスト一同

最優秀新進監督賞

『60歳のラブレター』 深川栄洋監督
『ハルフウェイ』 北川悦史子監督

最優秀新進男優賞

『フィッシュストーリー』など 高良健吾
『色即ぜねれいしょん』 渡辺大知

最優秀新進女優賞

『愛のむきだし』、『プライド』 満島ひかり
『容疑者Xの献身』、『60歳のラブレター』 金澤美穂

特別賞

八千草薫さんの演技に対して
(『ディア・ドクター』、『ガマの油』) 八千草薫『劔岳 点の記』の撮影に対して
(『劔岳 点の記』) 木村大作監督

(注)本映画賞は2008年10月～2009年9月に公開された作品を対象にしています。

第19回 映画祭レポート

総括

第19回映画祭TAMA CINEMA FORUMも無事終わりました。成果としては上映本数77本・ゲスト32名(無料ゲストを含めず)・延べ入場者数13,868人という結果を残しました。

これもひとえにバックアップいただいている芸術文化振興会・多摩市・協賛協力企業・地元企業、そして映画関係者の方々、そしてなにより観客の皆様のご助力あつての結果であります。

来年第20回を迎えるTAMA CINEMA FORUMにご期待ください！



11/21(土)

avex
ニュースター・シネマ・コレクション × TAMA CINEMA FORUM

エイベックス様ご協力の下、劇場未公開作品3本＋ゲスト13人を招いて、プレビューを行いました！

わざわざ駆けつけてくれた篠原哲雄監督が「自分の作品『ラムネ』を観て、観客の皆さんがどう感じたのか知りたい」と専用アンケートを配る徹底ぶり。

大いに盛り上がりました。



11/22(日)

長編コンペティション「第10回 TAMA NEW WAVE」

第10回にふさわしい盛り上がりを見せたTAMA NEW WAVE。ゲスト審査員の矢崎監督と北條氏は繰り返し作品をご覧になるなど真剣にノミネート作品を審査くださり、ゲスト審査員とノミネート監督とのバトルトークでは、厳しくも愛のあるお言葉で一つの作品に丁寧なコメントをくださいました。

一般審査員は過去最高の43名が参加。コンペティション会場には関係者も含めたくさんの方にご来場頂き、その後の懇親会でも監督たちとの交流が見られ、観客×審査員×作り手が一体となって盛り上がる、コンペティションの面白さを改めて感じました。

また、実行委員のイチオシ作品を集めた「ある視点」では、今年から若い世代に気軽に観てもらいたい！という趣旨で、学生の入場を無料にしました。その結果、専門学校生から高校生まで、様々な方にご来場頂きました。これをきっかけに、将来映画に関わってほしいと思ってくれる若い世代が増えてくれたら嬉しいです。



↑トーク開始前の
ゲスト審査員・監督の皆様

11/23(祝)

沖縄国際映画祭プレゼンツ『南の島のフリムン』など3本上映

吉本興業様ご協力の下、「沖縄国際映画祭プレゼンツ」と題してガレッジセールのお二人に来場して頂き会場を盛り上げていただきました。



11/28(土)

満員御礼！ 打上げも盛り上がったTAMA映画賞2009

映画賞は初の試みでしたが、豪華なゲストの方々にご登壇いただけて、立ち見もでる盛況ぶり。授賞式は新進女優賞からスタートしました。トップバッターは緊張すると楽屋で言っていた金澤美穂さん、満島ひかりさんでしたが、舞台では堂々たるもの。新進男優賞の高良健吾さんは緊張の面持ちでしたが、最後に「がんばるぞ！」と控えめにこぶしをあげて客席を盛り上げました。

そしてこの授賞式のメインゲストはなんと言っても八千草薫さん。舞台に登場されると大きな拍手が沸きあがり、ピンと張詰めた空気が漂いました。小柄でにこやかな物腰の柔らかい話し方ながらも相手の目をしっかり見据えての受け応えはさすが大女優。授賞式が一気に格調高いものになりました。

最優秀作品賞の西川美和監督・横浜聡子監督、新進監督賞の北川悦吏子監督と女性監督が多数受賞したのも特徴のひとつ。打上げでは、北川監督の声がけで授賞式では尻切れトンボに終わった女性監督ミニトークPart2が行われるなど関係者の和やかな歓談が続き、受賞された方々に喜んでいただけるイベントになったことが何より嬉しい一日でした。(文:本映画祭統括ディレクター)



11/23(祝)

「女子！女子！女子！」

動員にはかなりの苦戦をしました、女子企画。『非女子図鑑』は、「ニューシネマワークショップ」という映画スクールに通う一般の人々が、映画製作や劇場公開までに関わる全てのことを、プロの人々に指示を仰ぎながら製作した映画です。私もその中の新米プロデューサーとして、企画から全ての工程を体験し、最後は、映画を一番愛する映画祭の実行委員の中に入り、映画の広がりというのを肌で感じました。

そして映画が、そして映画祭が、ますます“社会とどう関わるか”って所がこれから問われていきます。映像がデータでだって送れる時代であるからこそ、映画館に映像を観に行くだけの価値を、どれだけ映画や、映画祭は確保する事ができるのだろうかと考えさせられました。

(文:企画担当者)

人気急上昇中のアイドル、足立梨花さんもお来場。観客の皆さんとジャンケンしたりして、盛り上げてくださいました！



11/28(土)

「林由美香は終わらない」

ピンク映画やAVを中心に200本以上の作品に出演して惜しくも急逝した林由美香さん。彼女は今もずっと映像の中にいます。

1本目は、傑作NHKドラマ『日曜日は終わらない』。由美香さんの儂げな存在感がたまらなく魅力的で忘れ難い作品です。

2本目は、故・林由美香さんを巡るドキュメンタリー『あんにょん由美香』。映像の中の由美香さんに会いに行くようなファンタジーに溢れた作品です。

そして、松江・高橋両監督と柳下さんらによるトーク。詳細はいずれ報告できればと思いますが、最後の柳下さんの「作品を見ている限り、林由美香は終わらない。だって、この私だって、絶対に見ていない由美香作品があるはずだから」という言葉にこのイベントが集約。みなさん、これからも由美香さんを絶やさぬように彼女の作品を見ていきましょう！

トークのあとは、前野健太さんのミニライブ。ラストは、照明を落として暗闇で生声・生ギターで「天気予報」を熱唱！感激。

(文:企画担当者)



11/29(日)

「等身大で描く若者像-ニート、地方都市、そして今-」

mixiニュースのおかげか、来て頂いたお客さんは、なんと200人以上！満員御礼、感謝・感激でした。

1本目『今、僕は』は、引きこもりの主人公の悟が「今」に出会う話です。説明描写を一切省いて引きこもりを生々しく描いています。ラストは、とても美しい。

2本目『SR サイタマノラッパー』は、主人公のニート・ラッパーIKKUが夢を追いつける話です。ラストは、映画史上屈指の名シーンで、思い出すだけで胸が熱くなります。

入江・竹馬両監督と宮台真司さんによるトーク。宮台さんは、両作をご覧になって日本の映画界は明るいと感じたそうで、企画した者としては何よりです。この不況で世知辛い世の中が表現にとってはよいチャンスだそうです。大局的に見て年々映画界(特に興行)は悪くなっていますが、映画祭としても素晴らしい作品を届けていなくては！

両作の出演者やスタッフの方々(宮台さんファン多数)にもお客さんとしてたくさん来て頂きました。感謝！(文:企画担当者)



11/29(日)「君が清志郎を知ってる 一忌野清志郎に感謝しま〜す祭〜」

忌野清志郎が今年5月2日に新たなツアーに旅立ってからはや7ヶ月。その半分以上をこの企画にかけることで「悲しい気分をぶっとばして」走ってきました。

実現できたのは心強い共同企画者たちがいたから。そして迎えた当日、もっともっとたくさんの仲間がいることを知りました。お客様の作る雰囲気があったかったこと！それはゲストの竹中直人さん、高野寛さん、司会の中村貴子さんにも十分に伝わり、トーク&ライブでは会場が一体になりました。お二人は清志郎さんとのエピソードを親しい友人に伝えるように優しい声で話してくださり、それらの何気ない、かけがえのない時間をおすそ分けしてもらえたようで心が温まりました。

ライブでは二人の想いがストレートに音に乗って伝わり、涙腺が緩む人多数。曲は、「忙しすぎたから」/RCサクセション、「サヨナラCOLOR」/ハナレグミの2曲。「サヨナラCOLOR」の「さよならから 始まるのが たくさん あるんだよ」という詞は4年前、『サヨナラCOLOR』を初めて上映したときとは全く違って聞こえました。

この企画に関わってくださった全ての方に感謝します！そしてココロのボス、キヨシローにこれからもずっと感謝し続けま〜す！！！！



11/22(日)「ブラボー国際映画祭」

今年も開催いたしました「ブラボー国際映画祭」。昨年同様に今年も3部構成で行われました。まずは、水野晴郎映画塾卒業制作発表会といたしまして『R16のヨーコ』の上映、続いて、ブラボー推薦映画特別試写会といたしまして、「シベ超」の新作!…ではない『暴走特急 シベリアン・エクスプレス』を上映いたしました。快く映像提供して頂いた、ニューセレクト/アルバトロス様、ありがとうございました。

そして、最後には今年で第4回を迎えた「ブラボー映画グランプリ」。いよいよ結果発表です。

ブラボー賞は『13歳のハゲ男』(アルバトロス)、『恐怖！キノコ男』(ゼイリブ)の2作品に決定いたしました。そして、デジャヴュ作品賞にはあの名作の忠実なりメイク!?!の『コマンダーR』(AMGエンタテインメント)に決定いたしました。

グランプリは、『恐怖！キノコ男』(ゼイリブ)に輝きました。『恐怖！キノコ男』は、GP史上初の2冠作品となりました。ご来場の皆様、ご投票頂いた皆様、ありがとうございました！！



番外編 28・29はチャプチェ・お菓子の日

モランボン(株)様・(株)ロッテ様ご協力で、会場来場者の皆様にチャプチェ・お菓子を配布しました。アンケートプレゼントの発送も行っています。



◆発行：TAMA映画フォーラム実行委員会

◆お問合せ：〒206-0025 多摩市永山1-5(ベルブ永山) 多摩市立永山公民館内

TEL 080-5450-7204(直通) 042-337-6661(公民館) FAX 042-337-6003

ホームページアドレス：<http://www.tamaeiga.org/>